

第 69 回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議 議事概要

○と き：令和 4 年 2 月 16 日（水曜日）17 時 20 分から 18 時 10 分まで

○ところ：大阪府庁新別館北館一階 災害対策本部会議室

○出席者：吉村知事・危機管理監・政策企画部長・健康医療部長・大阪府新型コロナウイルス対策本部専門家会議座長

（リモート出席）田中副知事・山口副知事・海老原副知事・福祉部長・教育長・府警本部警備部長・大阪市健康局首席医務監

【会議資料】

会議次第

資料 1－1 現在の感染状況について

資料 1－2 現在の療養状況について

資料 1－3 医療提供体制がひっ迫している要因の分析について

資料 1－4 感染状況と医療提供体制の状況について

資料 1－5 滞在人口の推移

資料 1－6 飲食店等における営業時間短縮要請の協力状況

資料 2－1 まん延防止等重点措置に関する要請

資料 2－2 専門家のご意見

資料 3－1 オミクロン株の感染まん延期における高齢者施設への支援等について

資料 3－2 新型コロナウイルス感染症患者等受入医療機関への緊急要請について

資料 3－3 医療提供体制の確保や高齢者施設支援などに関する医療機関・施設等への要請について

資料 3－4 オミクロン株感染まん延期における重症化リスクの高い高齢者等の治療支援の強化について

資料 3－5 宿泊療養施設を活用した「臨時の医療施設・スマイル」の運用

資料 3－6 入院患者待機ステーションの運用状況

【知事】

- ・現在、大阪府に適用されていますまん延防止措置、2 月 20 日まで適用されていますが、これについて大阪府としてどのように考えていくのか。その先について、どのように考えていくのか、この方針を決定したいと思います。
- ・また、それにも関連いたしますけれども、大阪府における感染状況は非常に厳しい感染状況が続いています。今、感染状況がどういう状況にあるのか。これについては健康医療部、また私自身も日々、この会議の中で、客観的な数字も確認しているところではありますが、それに加えて、今日は大阪府の専門家会議の座長を務めていただいております専門家であります朝野座長にお越しいただきますので、ぜひその感染状況等についての専門家としての知見をいただけたらと思っています。
- ・また、感染状況もちろんそうなんです、現在医療が非常にひっ迫をしています。ここはどういった感染状況であれ、医療を強化する。これが極めて必要だと認識をしています。

- ・とりわけ入院されてる方を分析いたしますと、7割以上が70代以上の高齢者の方です。そして本当に残念なんですけども、お亡くなりになられる方、もう9割以上が70代以上の方という状況です。
- ・高齢者の皆さんをいかに守っていくのか、これが今非常に重要な局面になっています。この間、様々な施策も実施をしてきています。
- ・また国との協議もしています。この医療をさらに強化するという観点について様々な施策をですね、この本部会議において、もう一度再確認をして、医療の強化を図る、何とか高齢者の皆さんをコロナから守る、こういった視点での、この本部会議としての議論をし、そして大阪府の方向性を定めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

※資料1-1に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-2に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-3に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-4に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-5に基づいて、危機管理監より説明。

※資料1-6に基づいて、危機管理監より説明。

※資料2-1に基づいて、危機管理監より説明。

※資料2-2に基づいて、専門家会議座長より説明。

※資料3-1に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料3-2に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料3-3に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料3-4に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料3-5に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料3-6に基づいて、健康医療部長より説明。

(意見なし)

【知事】

- ・本日は朝野先生にもお越しいただいてます。ありがとうございます。よくわかりました。
- ・あのピークアウトしてるかどうかというのはそういったトレンドにあるということなんですけども、大事なのは、非常に警戒感を持って対応するということが重要だと思っておりますので、そういった感染の頭に入ってる可能性が非常に高いということなんですけども、警戒感を持って見ていきたいと思っております。
- ・ただ全体のトレンドとすれば一定、頭打ちをしてるんじゃないかというご意見だと思います。
- ・その中で一つ気になってたんですけども、いわゆるオミクロン亜種と言われるBA.2なんですけど、これは諸外国によっては、それがきっかけでまた増えたと。だいたいこれまでの波を見ると、増えて減ると。増えたり減ったりがなかなかなくてですね、上がる時か下がる時かっていう波がもうどこ見てもほとんどなんですけど、オミクロン亜種の場合はまた上がってくると。
- ・こういうこともあの諸外国デンマークなんかで見られたりしてるというのも報道情報ですけど、そのレベルでしかないんですけどそれもちょっと耳に入ってます。
- ・これ、オミクロン株BA.2は大阪では未だ分離頻度が低く、増加の傾向にはなっていないと。これは

どういう意味なんですか、どう解釈したらいいんですか。

【専門家会議座長】

- ・はい。まだ今のところですね、数株が大阪大安研で解析をずっとしてまますけれども、どんどん増えてきて入れ替わっていくという感じがなくてですね。数株ずつ、ポロポロと出てきているという状況です。

【知事】

- ・やはり今増えているのは、オミクロン株の波が出来て、オミクロンの BA.2 が何かそれに置き換わるような状況にはまだなっていないということです。

【専門家会議座長】

- ・今のところないですけども、それを注意深く観察しながら、次にまたもう一遍、いわゆるリバウンドと言われているような現象が株によって起こることもありうるというふうに考えておりますので注意深く今から経過を見ていきたいと思っております。

【知事】

- ・また感染動向の全国との比較をみてもですね、例えば京都・兵庫っていうのは大阪と生活圏域も一緒なわけですけど、京都・兵庫・大阪というのは、やっぱりこれ似たような動きになってるんですけど、これは措置が同じだから似たような動きになっているのか。もうこれウイルスの特徴なのか。
- ・これ別々に動いてもいいような気がするんですけど。

【専門家会議座長】

- ・東京も一緒に動いてますよね。

【知事】

- ・東京も動いています。

【専門家会議座長】

- ・だから離れてても一緒に動いてるんで、一つの考え方としては、東京とか大阪という大都市につれられて落ちてくる。
- ・例えば沖縄も落ちてきましたけど、落ち方が弱いのは、東京とか大阪がまだ増えてるから、そういう意味では綺麗に落ちないという考え方もできると思います。
- ・ですから、あまりにもシンクロナイズドしてるところが、どうもウイルスの影響なのか、あるいは季節性なのか、あるいは大都市問題なのかという、そういう可能性を考える必要があると思います。

【知事】

- ・その中心地である東京や大阪で、前週比でいくと、減少している傾向が見られる。

【専門家会議座長】

- ・去年とも比べてみても、だいたい去年と同じなんです。幅が全然違います、増え方全然違うんですけど、パターンとして、対前週比をずっとプロットしていきますと、去年もこの時期にぽんと上がって下がってきた。
- ・それを今度、大阪の今年の場合は、もっと早くから急激に上がって、かなり高く上がって、対前週比が10倍以上になって、ずっと下りてきているという状況で、もう一つはやはり、その人の動きってというのは前から指摘のあるように、人が動き出すとそこに感染が起こる。そこに変異株という新しいファクターが入ってくるというものが起こってるんじゃないかと思います。

【知事】

- ・あともう一つ、先生からのご意見で、非常に興味深かったのが、インフルエンザとの比較なんですけど、これインフルエンザと同じじゃないかっていう意見の人もいらっしゃってるんですけど、僕が現場で病床管理とか、もう日々毎日やってる中でですね、これが制度の問題なんかどうなのかというのはあるかもしれませんが、これ到底インフルエンザと同じとは思えないなという思いで日々対応にあたっています。
- ・それを科学的に朝野座長には分析をして、先ほどご意見をいただいたんですけど、これはやっぱりオミクロンって若い年代と高齢者で、そのリスクっていうのが圧倒的に変わってきてるってということなのか、季節性インフルエンザと比べたときもオミクロンはやっぱりリスクが高いんじゃないかというご意見だったと思います、高齢者で見ると。
- ・これは年代によってずいぶん変わってきてるってということなんですか。

【専門家会議座長】

- ・一般的に言うと感染症というのはご高齢の方が重症化するっていうのは、もうこれは全ての感染症に共通の現象です。
- ・インフルエンザの場合には、インフルエンザウイルス感染肺炎というのがものすごく起こりにくくて、インフルエンザウイルスによる肺炎というのは、いわゆる今コロナの肺炎というのはもう一般的に皆さんよくご存知だと思うんですけど、インフルエンザの肺炎ってありますかっていうと、ほとんどないんです。
- ・これ、なんでじゃあ、インフルエンザでもご高齢の方が亡くなりますっていうのがよく言われてます。これは、肺炎を起こすんですけど、それはウイルスによる肺炎ではなくて、ウイルスによって痛めつけられた気道が細菌性肺炎を誘発してくるというふうに考えられておりますので、でも原理は別ですけど、高齢者にとってみれば同じ結果が出てくるということ。
- ・ただ、コロナの場合はいくら肺炎を起こしにくいといっても、やはり例えば最初の頃のデータでは90%ぐらいCT撮ってみたら肺炎起こってますねっていう、そのくらい肺炎が起こりやすい。圧倒的にコロナはインフルエンザより肺炎が起こりやすいです。
- ・今回のオミクロンはデルタなんかよりも少ないねって言われながらも、やはり十分の一とか、あるいは10%とか20%は肺炎が起こっている。
- ・特に今日もちょっといろいろと情報を集めて、先生方にお聞きして、これは科学的なデータじゃありませんけども、肺炎を起こす人はどうもやっぱり免疫が弱ってる人が起こしやすいみたいですよって

いう、そういうインフォメーションもありましたので、やはりある程度肺炎が起こって、そうすると、直接原因としての肺炎によって悪化されるご高齢の方がいらっしゃるということになるんじゃないかと思います。

【知事】

- ・そうなってくると、座長おっしゃってた、高齢者を守るっていうのがすごく対策として大切だということになるんですね。

【専門家会議座長】

- ・はい。まさにその通りで、若い人はもちろん、今回のまん延防止等重点措置にしても緊急事態宣言にしても、あれは最初から人が集まる場所、人と人との接触というところをブロックすることで、それで高齢者に感染を起ささないようにするという考え方だったんですけども。それが有効な時期というのは確かにあると思います、もう非常に初期の頃はとにかく起ささないように拡げないようにしましょう。
- ・ただ今の状況では、やはり高齢者も特異的に高齢者を守っていくということの方が、もうこんだけ拡がってますので、インフルエンザ並みに拡がってますので、もう拡げるのをやめ止めましょうという、一定程度の効果があるとしても、とにかく守れるものを守りましょう。
- ・最も具体的に言うと、もうとにかくワクチン。どんどん施設の人にはご高齢の方にはワクチンで守れる、副作用もご高齢の方は割と少ないのですよね、そういうことをやらないといけないと思っています。

【知事】

- ・ワクチンのブースター接種については、昨日、山際大臣とも直接話をしてですね、大阪の現状もちょっと話しました。
- ・やはり、大阪でも当然やっている話なんですけれども、これまでやってきて、よりやっぱり強化しなきゃいけないっていうので、基本的対処方針の中に、2月中に高齢者施設についてはワクチン接種完了せよという、もう国としての方針を定めてくださいということも要請もしました。
- ・国に要請するだけで問題解決してませんので、大阪府はどうなのってことになりますから、大阪府も山際大臣に要請するとともにですね、昨日、市町村に対して、やはり市町村それぞれ頑張ってくれているんですけど、施設によって、いろんな形態がある中で、完全にまだ終わってないという状況です。
- ・なので、2月中に高齢者施設のワクチン接種を完了するように、こういうことを市町村にもお願いをしたところです。
- ・ここについては、国とも当然協力し、国の方向性と大阪府の方向性としても、市町村とも共有しながら、施設とも共有しながら、あるいは朝野座長からも今ご意見アドバイスがありましたので、何とか早くこの高齢者施設のワクチン接種を終わらせる。

【専門家会議座長】

- ・ワクチンを打つと、2週間しないと効果が出ないんじゃないかということで、もうこれ2月に打ち始めても3月になったら下がってしまうんじゃないかという懸念も持っている方もいらっしゃると思

- ますが、ブースター接種はすぐに抗体価が上がりますので、そんなに2週間も待つ必要ありません。
- ・効果が出てくるのは、もう多分1週間以内に出てきますので、そういう形でまだまだ今必要なのはブースター接種で高齢者を守るというのが、もう一番具体的な方法かと思っておりますので、できるだけスピードアップをしていただければと思います。

【知事】

- ・健康医療部の方でも高齢者のブースター接種3回目は、もちろん接種は市町村の業務っていうのはわかっているんですけども、でも今こういう状況なので、ある程度強制力も持ちながら、市町村とも協力しながら、医療関係者と関係医療機関、それと施設に本来あるはずなので、そことも協力しながら、これは国にも僕もせっついてますけども、国の方針としては出してこれて話もしてありますが、そういった中で2月中にこれを完了させようと。それじゃできないというのは何でできないのかっていうことも含めてですね、市町村をサポートしながら一つでも多くの施設を2月中に全て完了させるという、大阪府で全部で3500施設があって数十万人の方が利用されてるわけですけども、今までも接種をやってきてる中でですね、より最後加速化させるということに力を入れたいと思うんで、それに関しての、ここでやってる仕組みもありますけど、ちょっとそこを特に強く意識してお願いします。

【健康医療部長】

- ・市町村への調査もしておりますし、今日明日で町村長会、市長会にも具体的にお願いをしておりますので、しっかり進めていきたいと思っております。

【知事】

- ・そしてもう一つは、その施設に関連すると、高齢者施設への医療介入が重要だと。
- ・そして、飲み薬、これももちろん有効なんだけど、点滴の治療薬のレムデシビルであったり、ソトロビマブ、非常に有効だと。レムデシビルも今軽症でも対応できるということを朝野座長からご意見をいただきました。
- ・この体制というのは、陽性者が出たときに、いかに速やかに早く、この高齢者施設におられた方にそれをするか。それによって重症化を防ぐ。防げたら守れるわけだし、医療のひっ迫も防げるようになってくるまさに入口の部分だと思うんですけど、このところ、さらに強化する体制、今日も様々これまでもやってきて、今日も確認して、国もソトロビマブないっていうんですけど、ちょっとそれだけ厳しい状況なんでもお願いしますと話してはありますが、そういったことも含めて体制ですよ。
- ・この強化、今でもやってるんですけど、さらなる強化がやっぱり、ことここに至っては必要だと思うので、このあたりはどうですか。さっき朝野座長から感染防止対策加算1の病院が中心になって仕組みを作ってるのか、いろいろやり方あるとはお聞きしましたけれども。

【健康医療部長】

- ・朝野先生からお話ありました吹田の圏域に関しましては、大阪大学さんを中心に、地域の市民病院さんでありますとか、そういうネットワークが保健所を含めてきちっとできていて、施設に対する対応をやっていただいていると思っております。
- ・基本的に各保健所そういうネットワークあるはずですので、それを患者対応ですね、保健所も65歳

以上の患者対応に重点化いたしましたので、まず保健所のマンパワーをそちらの方に注いでいただくということと、医療関係に関しましては、重ねて再度要請、施設応援の施設への医療介入の要請をお願いしたいと思っています。

- ・薬剤の確保等につきましては、健康医療部の方でしっかり国への要望を重ねながら、確実に在庫を確保するというのが大変難しいようですが、要請すれば、入力すれば、翌日入手ができると、スムーズに入手ができるという体制を確保していきたいと思います。

【知事】

- ・あと施設だけではなくて、当然、高齢者の方の自宅療養をされてる方、ここはやはり、ケアというか支援できれば、往診なんかも含めた早期の治療の体制、ここも重要になってくると思います。
- ・保健所はかなり数が多いんで、ひっ迫する中で、今回も65歳以上、もちろん妊婦さんとかハイリスクの方は65歳未満でも保健所で対応するという方針ですけども、基本的には65歳以上の方の健康観察をして、必要な医療の届け出というのがかなり絞り込んだ形での対応になってる。
- ・その自宅療養の高齢者の方、リスクあるんですよ。そこについての方針等々が結局、重要になってくると思うんですけど、このあたりはどうですか。

【健康医療部長】

- ・同様だと思います。自宅療養者に対する往診の訪問看護ステーションを含めた健康観察体制もそうですし、これまでもお願いして、整えてまいりましたが、その対象患者さんが非常に増えているということですので、再度のお願いをしたいと思います。

【知事】

- ・あと朝野先生の方から、こうした方がいいんじゃないかというご意見ありますか。

【専門家会議座長】

- ・特にはごいません。が、先ほど申しましたように、古い体質で、FAXを飛ばすというのが、これ実は医療側が悪だけじゃ、悪いわけじゃなくて、そういう体質なんです。
- ・保健所に何か届け出をするときはFAXでっていうことになってますので、この際、そういうことも見直していただくっていうことも必要かと思います。

【知事】

- ・わかりました。
- ・大阪市の保健所で当初、遅れがあったと。これはもう持ち返して遅れないという状況です。
- ・ただ、その6割がFAXのやりとりで、4割は医療機関でHER-SYSに入力していただいているので、やっぱり、これだけ数が増えるとなると、FAXを受けて打ち込むという原始的なやり方でも、最初に医療機関でわかってるんだったら、そこでファーストにやっぱり入れ込む。
- ・そこは様々な医療機関の協力等も必要になると思うんですけど、クリニックの先生方、今までは違う、慣習がそういう慣習だというご意見でした。そこを変えていく必要もあると思います。
- ・ただ、今遅れられると困るので、まずここは大阪市内では遅れないということで今やってもらってま

すから、その課題も大阪市とも共有しながら、まず目の前の対応という意味では、きちんと届け出を今ある、それもはっきり感染状況を把握しながら、その上で、やはりいかにリスクが高い方、高齢者をどうやって守っていくのか。そこに注力をしていきたいと思います。

- ・もちろん理想を言うと、若い人も含めて、全体の感染が下がって、そしてそこを抑えることによって、高齢者の生活習慣とかにウイルスが落ちるのはできるだけ防ぐことは、これは基本形、これはもうみんなわかっている話で、僕もわかっているんですけど、朝野座長のご意見で、これだけ拡がっている中で、むしろ高齢者を守るということに重点を置いた方がいいだろうというご意見もあるんですけど、それを前提としたときに、例えば高齢者の方とかに外出なんかも含めて、リスクの高いところは避けていただくことをより強くお願いする。
- ・あるいは、そういった同居の家族の方とか、これみんなと言えばそれはみんなが理想なのはもうわかっているんですけど、ことここに至っては、そういうこともより強調するというのは、重要じゃないかなって思うんですけど、そのあたりは何かご意見ありますか。

【専門家会議座長】

- ・施設の場合は、もちろんお出になる方じゃないわけで、やはり持ち込まれてしまうということがありますので、そういう意味で言うとオンラインで面会をしていただくなどのことは、多分、基本的対処方針にも書いてあったと思うんですけど、やはりスタッフの方をどう守るかということも必要で、例えばスタッフの方はできるだけ、そういう危険、リスクのあることをしないようにしましょうというふうな考え方として、ご高齢の方ももちろんそうなんですけど、やはりそこに持ってくる人たち、あるいはご家庭でそういうご高齢の方と一緒に住まいになっている方たちは、今の時代はもうインフルエンザ並みに感染が拡がっているんだから、やはりしっかりと感染対策を守って、ご高齢者を守るという考え方をする必要があると思っております。

【知事】

- ・わかりました。
- ・今日、朝野座長からも伺った意見も参考にしながらですね、まん延防止措置の延長となった時には、基本的対処方針がどこまでどう変わるか、ちょっとわかりませんが、これは国が定めますので、我々としては要望はいたしました。
- ・それを踏まえた上で、また対策を決定していくということになります。
- ・朝野座長から今日いただいた意見も踏まえながらですね、まん延防止措置がもし延長された場合の対策についても、その趣旨を反映できるように、また部内、専門家の皆さんの意見を聞きながら、ちょっと進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。
- ・大阪府の方針としては、非常にこの厳しい状況を特に医療逼迫している状況の中で、まん延防止措置の延長、これを要請したいと思っております。
- ・そして、とりわけ医療が逼迫していますので、医療の中を見ても、高齢者を守るということに力点を置いた対策をさらに強化する。医療体制をさらに補強強化していくことに力を入れていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

以上